

新型コロナ 自治体労働者に向けて

「なんでも相談ホットライン」を開設

5月21日～23日



大阪自治労連は、府内の自治体現場で働く労働者の不安に答えようと、5月21日（木）～23日（土）まで、新型コロナ問題「なんでも相談ホットライン」を開設しました。これには、大阪自治労連弁護団にも協力をいただきました。

相談件数は少なかったのですが、コロナ感染予防の出勤体制のことや、仕事を辞めたあとの雇用保険や生活補償についての相談がありました。次回の「なんでも相談ホットライン」も検討しています。

（2面に続く）

大阪自治労連に専用電話を開設しました

カジノよりコロナ対策を！

道頓堀スタンディング宣伝

新型コロナ問題は、第2波の感染拡大とともに、中小事業者などへの経済的打撃が心配されています。「こんな時にカジノ誘致ではなく、コロナ対策と生活支援に全力を尽くせ！」とスタンディング宣伝を行いました。

戎橋にてスタンディング（6月6日）



泉大津市職労



執行委員長 村田 あやさん(右)
(保育士・子育て支援センター)

書記長 村田 真紀さん(左)
(保育士・認定子ども園)

毛布の町で有名な泉大津市。泉大津市職労が結成されて20年がたちました。夏季闘争の真っただ中、がんばっている村田あや委員長と村田真紀書記長に話を聞きました。

保育所がいいなと思いました

あや 学生の時、実習で保育所に行きました。すごく良くて保育士になろうと思いました。泉大津の公立保育所でアルバイトしたときも、みなすごく楽しそうに仕事をしていて、なんでもみんな協力をしている、すごくいい雰囲気でした。

真紀 私も。幼稚園出身なので幼稚園と違って、保育所がいろいろと実習に行ったり、保育所がいいなと思いました。小さい保育所ですけど、先生も保護者もとても良く、夏休みとかアルバイトもさせてもらって。もう保育所しか考えてい

なかつたです(笑)。



役員のみなさんに集まってもらいました

市職労結成20年を振り返って

結成前は休憩もとれず 病気休暇もなかった

あや 市職労結成前は、休憩がとれない、病気休暇もない。当時の組合役員に言っても聞いてくれませんでした。休憩時間を確保するために市職労を作ったようなものです(笑)。

真紀 子どもが寝ている横でお茶を飲んで休憩するのが普通だと思って

いました。当時の組合で中央委員の時、「特殊勤務手当がなくなりまして」と言われ、職場で報告したら「えー!」と言われました。おかしいことは、おかしいと言わないといけないと思って市職労に入りました。

市職労・自治労連が あったからやってこられた

あや 家庭と組合の両立は難しかったです。でも、難しいことにも挑戦させてもらって、すべてがよい経験になりました。「ムダなことは何一つない」、いろんな勉強をさせてもらったと思います。全体のことを考えられる、そんな視点を持てるようになった。みんな話ができるというの大事なことだと思います。

真紀 執行部に入って、先輩方が苦労されたのがわかりました。先輩方のおかげで、休憩もとれて、環境のいいところで働けている。それは先輩方の働きがあったからこそです。「市職労・自治労連があったからやで」って、若い人たちにも伝えたいです。

先輩たちがつくってくれた職場環境の中で
今、私たちは働いているとみんなに伝えたい